

No.63 2014, Nov.

11 月・秋大祭号

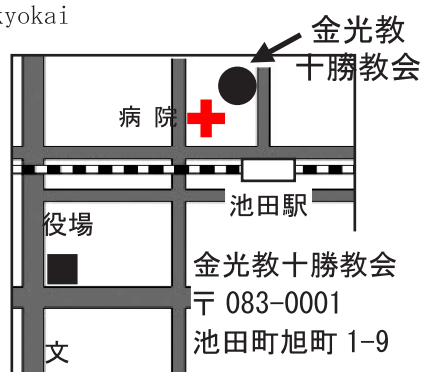
<http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai>

☎ 015-572-2322
fax 015-572-4213

十勝教会



だより 63



神様へのお礼

金光教十勝教会

以前、ご本部へお参りさせていただいたときのことです。



金光様に御取次をいただこうと本部広前へ行くと、80代と思われるご婦人がちょうど金光様の御取次をいただいていたいました。失礼と



本部広前のお結界です。
誰でもお取次をいただけます。

は思いながらも聞くとはなしにそ
のご婦人のお届けを聞いています
と、「私は今まで多くのおかげを
いただけてきました。いくらお礼を
言っても足りません。いったい神
様にはどうお礼をさせてもらうの
がよいのでしょうか？」というも
のです。「これは大事なことだ」と、
思わず聞き耳を立ててしまいました
た。そしてそのお届けに金光様が
一言「毎日、毎朝、あなたの目が
覚めるということが何よりの神様
へのお礼です」。一瞬そのご婦人
も、そして後ろで聞かれていた私
も「？」となりましたが、金光様
は再度「あなたが毎朝目を覚まし
のがお礼です。」と繰り返し返されま
した。

「神様へのお礼」というとうとうしてもおおげさに考えがちですが、金光様のお答えは「毎朝目が覚めること自体が神様へのお礼になる」という至極簡単なものでした。

○
この話を聞き、次ように思わせていただきました。

そのご婦人は、「自分は神様からおかげを受けっぱなしである」ということをお話されています。これは、自分がいつも神様のおかげに支えられてきたことの自覚にほかなりません。つまり、このご婦人は、自分はいつも神様のおかげに支えられていることを知っているわけです。あるいはそのことに気付いたわけです。



「立教聖場」

教祖様の時代のお広前（復元）です

私たち金光教では、人間の難儀の大元は、「天地の間に氏子おつておかげを知らず」（御神伝明治6年）という天地金乃神様からのお知らせにあるが如く、「天地、神様の働きの中に生かされている」ということを知らないことにあると教えられています。そして、神様はそのことを人々に悟らせるよう、教祖様に

取次を事依ぎされたのです。
ですから私たちの信心とは、「天地の間に住む私は、同時に、天地、神様の働きに支えられて生きている私である」ことを悟ることにほかなりません。

○
そして、このご婦人は「お礼をしなければならぬ」と思うほど、自分が神様にお世話になっていることを知っているわけです。以前は神様に支えられて生きてきたことに気が付かなかったかもしれない。しかし今は、神様に支えられての生活であることを知っているのです。だからお礼をしないといけない。「お礼をしなければならぬ」と思うほど、神様にお世話になっていることを知っているのです。

お礼の心を持った人が、お礼の心をもって毎日を過ごす。これこそが神様へのお礼になるのではないのでしょうか。なぜなら、それはつまり、神様の働き、「おかげを知っている」ということに他なりません。

「天地の間に氏子おっておかげを知らず」という神様からのお知らせでは、教祖様の取次（御理解）をもって「天地のおかけを知った人になる」ことが「神の助かり」にも繋がると伝えてあります。神様が助かること、それは即ち神様が喜ばれることでもあります。そして、神様が助かることは、信心して「いつもおかけをいただいている」ことを知ることです。

○
お供えはじめ何か具体的な

「お礼」をするのもお礼ではありませんが、なによりも「お礼の心」をもって毎日を過ごすこと。それこそが、信心する人の神様へのお礼なのです。

平成 26 年 11 月 金光教十勝教会

こぼればなし



倉敷市連島にある
古い道標

上の写真は、ちょうど本部参拝がてら足を伸ばした倉敷市連島町の旧街道で見つけた石の道標です。

道標は今の案内看板で、どの方角へ行けばどこへ着くということが刻まれています。この道標は三叉路に立っていますので「東」、「西」、「南」の三つの方角が示され、そのうち「東」は倉敷・岡山、「南」は呼松・下津井と刻まれています。いずれも今の岡山市、倉敷市であり、倉敷に現存する地名を指しています。

○
ところで、次ページの写真を
見ると

「西 玉島・金神・笠岡」

と刻まれているのが分かります。玉島は今の倉敷市玉島（新

倉敷駅のある地区)、笠岡は今
の笠岡市です。

では「金神」というのは一体ど
このことでしょうか？

倉敷の近辺には「金神」という
地名は見当たりません。



実は「金神」というのは今の
「金光町」、正確には岡山県浅口
市金光町のことを指します。つ
まり、金光教の本部がある金光
町のことです。

金光町の名称は大正12年の町
政執行時に決まったのですが、
当然それは町に「金光教」の本
部があるからです。

それ以前、金光教の本部が
あった地区は「吉備村大谷」と
呼ばれていました。ただし、そ
こにも「金神」の地名はありま
せん。

しかし、明治34年、金光教本
部への参拝者が増加したことを
踏まえ、当時の山陽鉄道（今の
JR山陽本線）に新駅が開設されま
す。

その新駅の名称は「金神駅」！
この駅は今の「金光駅」のこと
ですが、金光教の布教当初、世
間の呼び方は「金光」ではなく
「金神」の方が多かったことが
伺われます。

教外だけではなく教内でも
「金神」の名前の方が通ってい
たのかもしれない。

確かに教祖様の信心は、金神

の氏子として本格的に始まり
ました。その後、ご自身の信心
が進むにつれ、一般には「金
神」としか捉えられなかった神
様が、実は「天地金乃神」とい
うとても大きな神様であるこ
とを悟られ、「金神」ではなく
「金光」という名称を使われる
ようになったのです。

いずれにせよ、新たに駅を設
けなければならぬほど、街道
筋にも「金神」と標さなければ
ならないほど、参拝者が多かつ
たということでしょう。

ちなみに「金神駅」ができた
のは金光教が神道本局から独立
を果たした翌年のことでした。
いかに当時の金光教に勢いが
あったかを思わせる史跡の一つ
です。

教会 日 誌

平成 26 年 8 月 8 日から 11 月 9 日まで

8 月 8 日	教区少年少女キャンプ「みどりのひろば」、旭川市。4 名参加。
8 月 10 日	音更町、W 家、納骨祭。
8 月 16 日	教会創立記念祭・布教功労者報徳祭執行。
9 月 6 日	本別町、I 家、式年霊祭。
9 月 6 日	音更町、M 家、例年感謝祭・例年霊祭。
9 月 7 日	士幌町、T 家、例年霊祭。
9 月 10 日	池田町、M 家、百日祭。
9 月 13 日	札幌市、K 家、式年霊祭。
9 月 21 日	帯広市、I 家、式年霊祭。
9 月 23 日	秋季霊祭執行。
9 月 23 日	札幌市、T 家、葬儀式。24 日まで。
9 月 30 日	釧路市、S 家、式年祭。
10 月 19 日	釧路教会大祭、交流参拝。
10 月 26 日	網走教会大祭、交流参拝。
10 月 26 日	札幌教会大祭、副教会長教話御用。



写真 - みどりのひろば
 今年は旭山動物園の見学や羊の丸焼きを体験しました。

11 月 1 日	札幌市、Y 家、式年霊祭。
11 月 3 日	北見教会大祭、交流参拝。
11 月 3 日	夕張教会大祭、副教会長祭主奉仕。
11 月 9 日	帯広教会大祭、交流参拝。
11 月 9 日	札幌市、T 家五十日祭、合祀祭、納骨祭。
11 月 9 日	大祭前大掃除、大祭打ち合わせ。

♪親神のよぎしのままに♪

一、親神の
わが生神
取次の
代々を経て
神からも
両方の
親神の
生神を
神のひれ
照り映えて
取次の
とこしえに
よぎしのままに
金光大神
道立ちしより
今につげり
氏子からも
恩人なりと
のらし給える
讃えまつらん
木綿崎山に
日の光なす
道の靈光を
仰ぎまつらん

食 後 訓

食物はみな人の命のために
天地乃神のつくり
与え給うものぞ
何を食うにも飲むにも
ありがたく頂く心を忘れなよ

食 前 訓

食事はみな人の命のために
天地乃神のつくり
与え給うものぞ
何を食うにも飲むにも
ありがたく頂く心を忘れなよ

- 先 祭員着席
次 拝 礼
次 神前拝詞奉唱
次 取次唱詞奉唱
次 祭主祭詞奏上
次 祭主玉串奉奠
次 祭主玉串奉奠
次 天地書附奉体
次 教会長玉串奉奠
次 参拝者代表玉串奉奠
次 金光大神賛仰詞奉唱
次 親神のよぎしのままに斉唱
次 拜 礼
次 祭員退下
次 吉備舞奉納「白菊」
次 御神伝奉読・講師紹介
次 教 話 副教会長

かみひと 神人 あいはかけよの生活運動

願 い

御取次を願ひ頂き

神のおかけにめざめ

おれと喜びの生活を進め

神心となつて人を 祈り

助け 導き

神人の道をあらわそう



KONKOKYO
金 光 教

金光教十勝教会